

大学の夜間部について、生成 AI に聞く

質問

大学の夜間部が、過去に大きな役割を果たしたと聞きます。たとえば明治大学や関西大学。その理由や実際、そして現在は少なくなった理由を教えてください。そのことに関する文献も教えてください。

CHAT GPT の回答

大学の夜間部(いわゆる“第2部”)は、かつて日本の大学教育において非常に重要な役割を果たしていました。以下に、明治大学や関西大学などを例に、その歴史的意義、現在の減少理由、そして参考文献を整理してご紹介します。

① 夜間部が果たした歴史的役割

- **戦前から戦後の勤労学生の受け皿**
旧制大学や専門学校時代から、昼間は働きながら学ぶ「勤労学生」のために夜間授業が行われていました
- **教育基本法／学校教育法による制度的保障**
1947 年(昭和 22 年)施行の教育基本法により、大学は夜間部を設置できると明文化されました。
- **明治大学における夜間部(第2部)**
明治大学は 1949 年の新制大学化以降、法・商・政経・文・工などに夜間部を設置し、勤労社会人や夜間通学希望者に門戸を開いていました。2004 年に全ての夜間部が廃止されました。
- **関西大学の夜間部史**
関西大学も創立時から法律学校として夜間授業を行い、1948 年に第2部設置。1953 年に天六キャンパスへ移転し、1994 年には全学部夜間部を千里山キャンパス統合。2002 年に募集停止、2014 年に天六キャンパスを閉鎖しました

② 減少した理由と現在の状況

- **勤労学生の減少と少子化**
社会構造の変化により、働きながら学ぶ学生が激減。加えて18歳人口の減少が夜間部の存在意義を縮小させています
- **昼夜開講制への移行**
多くの大学は、夜間部より柔軟性の高い「昼夜開講制」に移行。昼間主コースと夜間主コースが併存し、選択自由度が高い制度が普及しました。
- **経営的・運営的負担**
夜間部は昼間部と比べて教員配置や設備管理のコストが高く、効率性の観点からも廃止されるケースが多くありました。
- **大学全入時代と社会人向け大学院の台頭**
大学全入時代により、「昼で漏れた受験生」が減少し、夜間部志望者自体が減少。社会人の再教育ニーズは大学院へ移行し、夜間部は存在意義を失いつつあります。
- **今も残る学び直し／社会人ニーズへの対応**
現在では、大阪経済大学や東京理科大学などが学び直し層を対象に夜間部を継続し、新制度（クォーター制や長期間履修可制度）を導入しています
-

③ なぜ明治大学や関西大学の夜間部が歴史的に重要だったのか？

- **社会に開かれた教育の一環**
学校教育法に基づいて、働きながら学びたい人に門戸を開いていた制度として、教育機会の平等に貢献しました。

- **著名な社会人・卒業生の輩出**
夜間部出身の著名人(例: 吉永小百合さんや東国原英夫さんが早稲田第二文学部など)も多くいます。
 - **戦前戦後の継続性**
明治大学や関西大学は、元々夜間教育を核にした教育機関であり、それが大学の文化として根付いていました。
-

④ 夜間部の現在数・規模感

- 文部科学省『学校基本調査』(令和5年度)によると、夜間部を設置している大学数はかつての141大学から約56大学へと、約30%に減少しています。
-

⑤ 参考文献・資料紹介

以下の文献や資料をご参照いただくと、より深く理解できます：

- 文部科学省「学校基本調査」(年次別で夜間部設置の推移や学生数統計あり)
 - 『大学事典』(平凡社刊)：「夜間部」の歴史・制度的背景に関する解説
 - 各大学の沿革・アーカイブ(例：関西大学「第2部(夜間部)」アーカイブ、明治大学の歴史年表)
 - 産経新聞・NHKなどの記事：「大学全入時代と夜間部の減少、社会人学生の変化」についての論点整理
-

まとめ

- 夜間部は戦前から勤労学生や社会人を支え、教育の門戸を広げてきた制度でした。

- 明治大学や関西大学では、運営の中心として古くから夜間教育に力を入れていましたが、2000 年代初期から廃止されました。
- 現代は少子化、制度性、経営効率、社会人教育の方向性の変化により、夜間部そのものは減少し、大学院や昼夜フレックス制度へと移行しています。
- ただし、学び直しやキャリアアップを目指す社会人を対象とした夜間部は、まだ一部大学に残っています。

もし特定の大学(例えば明治大学・関西大学・早稲田大学など)の詳細な導入～廃止年次や学生数などを知りたい場合も、お知らせください。具体的な数値やデータのご案内も可能です。